

KYOUSSEI DAYORI

- きょうせいだより -
No.40 R7.12

矯正を知ろう！再犯防止をもっと身近に！

- CONTENTS -

- ・再犯防止シンポジウムを開催します！
- ・居住支援意見交換会開催！
- ・インタビュー
セカンドチャンス！佐賀 代表
- ・検証！
女性犯罪者の処遇と実態
- ・あなたの街の矯正施設⑯
熊本刑務所



きょうせいだよりってなに？

※ 本誌は、地方公共団体や民間団体の皆さまに、法務省の再犯防止の取組や矯正施設のことなどを知ってもらいたいという思いを込めて配信するお便りです。日々の業務の合間に手に取ってご覧いただき、私たち矯正のことを少しでも身近な存在として感じていただければ幸いです。

※矯正施設…犯罪や非行をした人に自らの罪を反省させるとともに、円滑に社会復帰できるよう内省を深めさせたり、訓練を行ったりする施設の総称。刑務所、少年刑務所、拘置所、少年院、少年鑑別所がある。

再犯防止シンポジウムを開催します！

法務省では、広く国民の間に再犯防止施策についての関心と理解を深め、その協力を得られるよう、毎年、全国を8ブロックに分けて再犯防止シンポジウムを開催しています。

今年度の再犯防止シンポジウムのテーマは、「民間協力者による社会課題解決としての再犯防止の取組」です。九州沖縄ブロックでは、様々な立場から再犯防止について考える機会にしようと、後半のトークセッションには、立ち直りの当事者である刑務所出所者や協力雇用主、刑務官、支援者、自治体職員、そして会場である西南学院大学の学生が登壇する予定です。

現在、シンポジウムに向けて鋭意準備中で、先日は西南学院大学の学生に福岡刑務所での対話型施設参観を実施し、刑務所についての理解を深めてもらいました。

◆再犯防止シンポジウムについて

【日時】

令和8年2月17日(火)

13時30分～16時30分

【会場】

西南学院大学チャペル

(福岡市早良区西新6-2-92)

※詳細は今後、法務省ホームページに掲載いたします。

社会に求めることは？



本当の意味での改善更生って？



参加は無料だよ！



10月に沖縄刑務所、11月に福岡刑務所で、居住支援法人をはじめ、関係機関の方々に集まりいただき、意見交換会を開催しました。

今年度の意見交換会では、後半にグループワークの時間を設け、架空の事例について話し合いました。それぞれの立場でできること、難しいことなど意見を出し合い、新たな気づきを得ることができたように思います。

刑務所出所者等が地域社会において安定した生活を送るために、**住居は欠かせない基盤**であり、住居の確保は再犯防止推進における重要な要素の一つとなっています。新たな被害者を生まない、安全で安心して暮らせる社会の実現に寄与するため、今後も地域と矯正とで相互理解を深めていきたいと考えています。

居住支援意見交換会を開催しました！



まつお まさと
松尾 昌人さん

ーセカンドチャンス！佐賀 代表
セカンドチャンス！九州管理理事ー

セカンドチャンス！

特定非営利活動法人セカンドチャンス！は少年院出院者が経験と希望を分かち合い、仲間として共に成長するという目的の下、活動しています。全国に活動拠点があり、少年院出院者が経験・悩み・希望を分かち合い語り合う交流会や少年院などでの講演活動を行っています。

今回は、セカンドチャンス！佐賀を立ち上げ、セカンドチャンス！福岡でも精力的に活動されている松尾さんにお話を伺いました。

セカンドチャンス！での活動

野口（当課課長）…松尾さんがセカンドチャンス！で活動するようになった経緯を伺ってもいいですか。

松尾…17歳のときに捕まって、18歳を丸々少年院で過ごしました。少年院を出てから、建築関係を転々として、21歳になってからは新聞社の営業を

していました。辛いことがあったりする中で、弟からセカンドチャンス！のことを教えてもらって参加したのが始まりです。少年院を出た子たちは、周りからあーだこーだ言われるんですけど、そんな中でも**自分が背中を見せていたら、少年院を出た子たちも前に進めるかなと思って活動しています。**

野口…セカンドチャンス！はどのような活動をされているんですか。

松尾…月一回、交流会を行っています。交流会は、若者の居場所づくりを目的として、ボーリング大会や食事会などいろんな活動を行っています。また、福岡少年院や大分少年院で、定期的に「車座トーク」をやらせてもらっています。車座トークでは、少年院の在院者とセカンドチャンス！のスタッフが車座になり、参加者の悩みなどを聞いたりしています。最近では、少年院で車座トークを経験した出院者が、交流会に参加してくれるようになりました。

野口…少年たちは、どうやってセカンドチャンス！を知るんですか。

松尾…少年院の教官たちからセカンドチャンス！のことを聞いているみたいです。セカンドチャンス！の本で知ったという子もいます。また、車座トークでも帰り際に「出院後、おいしい物が食べたくなったら連絡しておいで」と伝えるようにしています。何もないのに連絡ってなかなかしにくいですが、この間は、出院の連絡をもらって、長崎県まで行ってきました。遠かったんですけど、自分が少年院から出たときに何度も僕の家に来てくれた方がいて、その方



と同じことをしていこうと思っ
て長崎県まで行ってきました。
野口…関わり続けてくれる人が
いたんですね。

松尾…自分が少年院を出てから
孤独を感じていたんですね。
当時は、過去の友達とは縁を切
りなさいっていう教育だったん
です。それで、縁を切りますと
言って出院すると、非行のつな
がりばかりだったから孤独に
なるんですよ。

**そんなときにつながっている
人がいるって大事ですね。**

僕はセカンドチャンス！のお
かげで、色々な人の話を聞くこ
とができて、昔の自分が格好悪
いなと思えたんです。自分もそ
うやって人の役に立つことがで
きればと思って活動しています。
野口…これまでセカンドチャン
ス！で活動してきて、印象に
残っている出来事がありますか。
松尾…少年院での車座トークで、
がつつり入れ墨をしている子で、
無愛想にしている子がいたん
です。この子はセカンドチャン
ス！には絶対来ないだろうなと
思っていたら、出院後に来てく
れたことがありました。その子

が話してくれたんですが、車座
トークのときに、「更生って何で
すか」って聞いたところ、僕が
「**母親が笑っていられること**」っ
て答えたことがあって、その子は
それが一番心に響いたそうです。
そのことは印象に残っていますね。

野口…セカンドチャンス！の活動
は、社会や対象者にどのような影
響を与えていると思いますか。

松尾…以前、暴力団に入ることを
考えている子がいたとき、セカン
ドチャンス！のメンバーから自分
の経験を基にやめた方がいいよと
言われてやめた方がいました。そ
ういう抑止力にはなっているのか
なと思います。

それと、セカンドチャンス！は
再犯をして捕まったとしても、社
会に戻ってきたときに「おかえ
り」と迎え入れます。**一回捕**



一回捕まったら終わりという関係ではないです。

**まったら終わりというわけでは
なくて、そうやって見捨てない
でいてくれる存在も必要かなと
思います。**

野口…立ち直りのためには、そ
ういうつながり続けてくれる存
在は大事なんですね。

松尾さん自身は、セカンド
チャンス！佐賀の代表として活
動し続けることで、少年院出院
者という目で見られ続けると思
うのですが、それについて葛藤
はありますか。

松尾…そうですね。営業に行く
と、自分のことを調べられて、
そういう人ならお断りというこ
ともありました。でも、自分は
あまりそういうことは気にしな
いので。**それよりも、少年院を
出てきた子が孤独にならないよ
うにしたいです。**それに、少年
院では忍耐力、精神力、持続力
を付けることができたと思っ
て、勉強することの楽しさも
分かったし、出院後、初めて仕
事が1年続いたので、自分とし
ては少年院で学ぶことも多かつ
たと思います。

また、現在、セカンドチャン
ス！で活動していることは、自

**分にとってもストッパーになっ
ているんです。**セカンドチャン
ス！佐賀の代表が再犯なんてし
たらいけないと思って。

野口…セカンドチャンス！の活
動が再犯のストッパーになっ
ているんですね。

最後に、居場所がない人やセ
カンドチャンス！の活動に興味
を持っている人たちにメッセー
ジをお願いします。

松尾…まずは躊躇せずにセカン
ドチャンス！に飛び込んできて
ほしいなと思います。僕は少年
たちによく「視野が狭いよ」と
言います。世の中、前向きに頑
張っている人がたくさんいると
いうことを知ってもらって、再
犯をしないためには将来を悲観
するばかりじゃなく、明るい未
来を描くことも大事なんだよと
伝えたいです。



検証！

女性犯罪者の
処遇と実態

女性犯罪者

女性の刑法犯の検挙人員は、平成18年以降減少傾向にあり、令和5年は3万9,370人と平成17年の約2分の1でした。女性入所受刑者の人員も同様に減少傾向にあります。女性入所受刑者の再入者率を見ると、平成17年から令和元年まで上昇傾向で、以降も高止まりの状態となっています。

これまで女性犯罪者に関しては、女性特有の問題に着目した指導及び支援を強化することに重点が置かれ、矯正施設在所中から関係機関等と連携した切れ目のない社会復帰支援等の実施を目指してきました。女性受刑者の収容施設として指定されている刑事施設（医療刑務所及び拘置所を除く。）においては、女性受刑者の特性に応じた処遇の充実を図るため、多職種でネットワークを作り処遇の充実を図る「女子施設地域連携事業」を行っているほか、一部の施設では「女子依存症回復支援事業」、女性受刑者特有の課題に係る処遇プログラム

△、摂食障害を有する受刑者への対応など、様々な取組が積極的に実施されています。

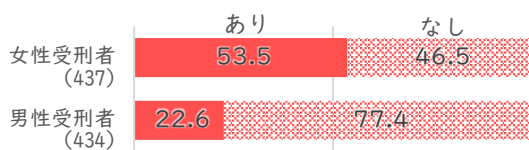
女性受刑者に関する
特別調査

特別調査

令和6年版犯罪白書では、女性犯罪者の再犯防止や円滑な社会復帰に着目し、近年における女性犯罪者の実態及びそのニーズを把握するため、受刑者等（女性受刑者に加え、比較対象のための男性受刑者等を含む。）を対象とする特別調査を行い、男性受刑者との比較による分析に加えて、女性受刑者の入所罪名の多くを占める窃盗事犯と薬物事犯という二つの犯罪類型に着目し、分析を行っています。本誌では、その特別調査から2点抜粋してご紹介します。

図1は、逮捕などで身柄を拘束される直前の1年間において、治療や投薬を受けていた精神疾患の有無を男女別に集計したものです。男性に比べて、女性受刑者は「あり」の割合が高くなっています。就労状況の調査でも「失業中」又は「無職」と回答した65歳未満の方に働いていなかった理由を聞く

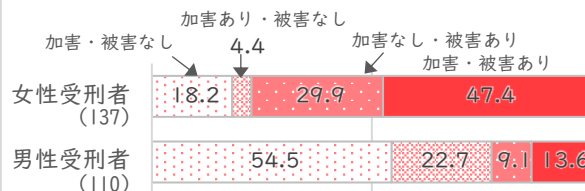
図1 精神疾患の有無（男女別）



注1 法務総合研究所の調査による。
2 精神疾患の有無が不詳の者を除く。
3 () 内は、実人数である。

と、女性受刑者は「健康上の理由」を挙げることが多く、**女性犯罪者の再犯防止又は円滑な社会復帰を図るに当たり、心身の健康に留意する必要があると考えられます。**

図2は薬

図2 薬物事犯における配偶者・交際相手間の
の加害・被害経験（身体的暴行）

注1 法務総合研究所の調査による。
2 配偶者・交際相手間の加害及び被害経験が不詳の者を除く。
3 配偶者には事実婚、別居中の夫婦及び元配偶者を含む。
4 () 内は、実人数である。

たものです。本誌では身体的暴行についてのみ掲載しておりますが、犯罪白書によると、心理的攻撃、経済的圧迫、性的強要についても男性受刑者より被害経験ありの割合が多くなっています。小児期逆境体験（ACE）についても、薬物事犯の女性受刑者は経験している割合が高く、こうした被害経験等による生きづらさについても留意する必要がありますと考えられます。

このほかにも、令和6年版犯罪白書では様々な調査結果が紹介されています。犯罪白書は法務省ホームページからでも閲覧できますので、詳細はそちらをご覧ください。

質問やご意見、取り上げてほしい事項などありましたら、当課までお気軽にご連絡ください。

お問合せ先

九州矯正管区 更生支援企画課 福岡市東区若宮5丁目3番53号

TEL:092-661-1143（直通） FAX:092-663-1001

MAIL: i.kyuushuukyouse.ga0@i.moj.go.jp



熊本刑務所



所在地：熊本県熊本市



9
あなたの街の
矯正
施設
Vol.19



POINT

熊本刑務所について

熊本刑務所は、明治5年、細川藩の屋敷跡に熊本監獄として設置されたのが始まりです。大正4年に現在地（熊本市中央区渡鹿）に移転し、大正11年、熊本刑務所と改称しました。

当所は、主に、無期刑を含む刑期10年以上の再犯リスクの高い受刑者と刑事裁判が確定していない被告人を収容しています。そのため、当所は、殺人、強盗致死傷、不同意性交等の重大犯罪の受刑者が多数収容されています。また、近年は、受刑者の高齢化が進んでいる状況です。



高齢福祉課程▲▶
健康運動の様子



受刑者との対話



▲高齢福祉課程
ジグソーパズルに取り組む様子

当所は、依存症回復、暴力団離脱、被害者の視点を取り入れた教育等の改善指導、教科指導、就労支援等を実施しています。最近ではリフレクティングの手法を取り入れた対話実践を行っています。これまで職員が伝えたいことを効果的に伝えるために受刑者の話を聞くイメージでしたが、リフレクティングでは受刑者の話に耳を傾けることに集中します。これは似ているようで違います。リフレクティングの手法を取り入れた対話実践を行うことで、一方、向から双方の関係になり、受刑者と一緒に考えるイメージに変化しました。受刑者に、以前より安心してじっくり考える時間を作ることができているように感じています。

VOICE

現場職員の声——教育専門官——



当所は、対話実践だけでなく被害者の視点を取り入れた教育においても、受刑者の同意が得られたときにリフレクティングトークの形で指導を行っています。実施前、無期刑の方や事件を否認している方の中には「受講しても意味がない。」と話す方もいますが、安心して話しているのと、「ずっと長い間話せなかったことを初めて話せた。」「被害者や事件のことをこれまで以上に考えるようになった。」「話すことの大事さ、聞くことの面白さを知った。」などの感想を聞かせてもらえることが増えてきました。

私は、殺人事件に関わったことはありませんし、被害者支援の専門家でもありません。そんな私が、取り返しのつかない経験や思いを持つ受刑者の方々にどんな言葉を掛けられるだろうかという思いがありました。今は、丁寧に話を聞くこと、話を聞いて感じたことを伝えることはできるのではないかと考えています。その人にとって、なかなか人に話せないような大事な話を聞かせてもらっていることはありがたいことですし、それを聞かせてもらっているからこそ私自身ちゃんと話を聞きたいという思いにさせてもらっていると感じています。